



書籍と出版物

ブラウザで日本語訳にしてお読みください

『平和と癒し』(Peace and Healing)

世界総会家庭部または www.AdventSource.org



enditnow 安息日資料(enditnow Sabbath packet)

女性部のウェブサイトより入手可能

www.adventistwomensministries.org



enditnow小冊子シリーズ

『これは私たちの家庭、教会、コミュニティで起きている』
(This Happens in Our Homes, Our Churches, Our Communities)

『女性と少女に対する暴力がもたらす健康への影響』
(Health Consequences of Violence Against Women and Girls)

『沈黙を破ろう』小冊子シリーズ6巻:

『あなたは暴力をやめさせ、癒す手助けができます』

『あなたは誰か虐待されている人を知っていますか?』

『あなたは彼氏や夫に虐待されていますか?』

『あなたは誰かを虐待していますか?』

『あなたの子供は虐待されていますか?』

『あなたは彼女や妻に虐待されていますか?』

enditnow

www.enditnow.org



内閣府男女共同参画局「女性に対する暴力の根絶」

www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html



再生ミニストリー

www.regenerationministries.org



ウェブサイト

信仰と信頼研究所

www.faithtrustinstitute.org



ユニセフ

www.unicef.org/reports



地域および国際的な情報

多くの国には、頼ることのできる地域のリソースがあります。第一に挙げられるのは、地域の「セーフハウス」や「女性シェルター」です。これらの施設は、虐待問題に関する教育支援を積極的に提供しています。各地域の広報チラシやカードなど、それぞれの地域の情報から探してみてください。

「DV相談ナビ」: # 8008(晴れれば)

「よりよいホットライン」: 0120-279-338(24時間)

外国語での相談可

「児童虐待相談窓口」: 189(いちはやく)

ヒューマン・ライツ・ウォッチ

1522 K Street NW #910, Washington, DC 20005

電話: 1-(202) 371-6592

国連女性開発基金(UNIFEM)

Eメール: currents@unifem.org

主催: セブンスデー・アドベンチスト世界総会及び以下の各部門

・チャプレンミニストリー・児童部・教育部・家庭部・健康部

・牧師会・女性部・青年部

詳細情報はこちらまで:

Eメール: wm-fm@adventist.jp

ウェブサイト:

www.adventist.jp/evangelism/wmf/nditnow-day/

www.enditnow.org

電話: 045 - 921 - 1123

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 女性部

住所: 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町846



enditnow®

Adventists Say No to Violence

虐待について沈黙を破ろう

愛は 傷つけるものではありません



虐待とは何か？

虐待：誰かを身体的、心理的/感情的、性的に傷つけたり、痛めつけたりして、支配、コントロール、権力を行使する行為。虐待は明白な場合もあれば、微妙な形で行われることもあります。しかし、その種類に関わらず、結果は同様に破壊的です。

虐待の種類

身体的虐待：屈辱、身体的な痛みや傷害を引き起こす行為。

心理的/感情的虐待：自尊心や自己決定力を失わせる行為。

性的虐待：望まない、不快、不適切、または強制的な性的行為。

経済的虐待：被害者の許可や知識なしに、その財政を操作・使用する行為。

デジタル虐待：テキストメッセージやSNSを使用している、嫌がらせ、ストーカー行為、脅迫する行為。



児童虐待：上記すべてに加えて、必要不可欠な医療、食事、適切な監督やケアの怠慢や剥奪など。

クリスチャンとして何をするべきか

クリスチャンとしてあなたは今までに…

- 教会で虐待が起きていないと信じたことはありますか？
- 虐待の被害者から助けを求められたことはありますか？
- 虐待の被害者のニーズに圧倒されたことはありますか？
- 家庭内暴力に対応するためのリソースがもっと欲しいと思ったことはありますか？
- 自分の認識や対応が虐待の被害者への対応には不十分だと感じたことはありますか？

クリスチャンとして私にできること：

- 虐待が自分の教会内でも起こることを認識する。
- 自分の教会がすべての人にとって安全な場所であるよう努める。
- 自分の教会を虐待に関する問題について話しやすい、安全で快適な場所にする。
- 守秘義務を尊重する。
- 被害者の痛みや心の傷を理解するために、良い聴き手となる。
- 主観的な自己判断を下さず、被害者やその家族をサポートする。

- 地域の利用可能な支援サービスについて把握し、適切に紹介する。
- 他のクリスチャンに虐待に関する情報を提供する。
- 可能かつ適切な場合には、地域の女性シェルターを支援する。
- 加害者の行動に対して責任を取らせる。
- すべての人の価値を再確認する。
- 被害者が直面する障壁を認識する。
- 教会内で虐待について話すことを奨励する。
- 虐待の問題やケースに対処する際の自分の限界を理解する。
- 被害者の安全と支援を手助け・手配する。

クリスチャンとして、私は次のことをしません

- 宗教的な教えや説教を虐待の正当化に使用しない。
- 被害者の安全が最重要であることを忘れない。
- 暴力を否定・軽視しない。
- 虐待を無視・隠蔽・否定・沈黙しない。
- 被害者の守秘義務を破らない。
- 家庭内暴力に言い訳を与えない。
- 自分が訓練を受けていない役割を担わない。

出典：家庭内暴力を理解するための牧師の手引き
America Rose, PhD; CJLE, 2005

誰が虐待されているのか？



虐待は性別や年齢を問いませんが、虐待を受ける人の大半は女性と子どもです。世界の女性の3人に1人は、一生に一度は虐待を受ける可能性があると言われています。日本では高齢者に対する虐待もあります。

主の望まれることを

「弱者や孤児のために裁きを行い、苦しむ人、乏しい人の正しさを認めよ。弱い人、貧しい人を救い、神に逆らう者の手から助け出せ。」 詩篇 82:3-4

「主は、家庭が天国の秩序と調和を映し出すことを望んでおられます。」

エレン・ホワイト『健康への勧告』101ページ